

# ふすまの下張りから松本が見える

話題提供 **横田 國政**さん (松本市古文書研究会会長)  
 日 時 **7月20日(土)** 午後1時30分～3時30分(予定)  
 会 場 **あがたの森文化会館 講堂第一会議室** 参加費 200円  
 ※ 電話での事前申し込みが必要です

手元に『黎明』という冊子があります。今回のサロンの裏方を務める有馬正敏さんが編集された、横田先生に古文書解読の手ほどきを受けたみなさんが思い出を記した1冊です。最後を飾るのは徒士町史談会の吉田俊さんの「私と古文書」です。そこには「私が古文書とかかわることになったのは、横田先生を講師にお願いして古文書の勉強会を始めた昭和57(1982)年の夏のことです。」とあります。

この年は私が大学に入学した年です。その私がすでに定年を過ぎているのですから、横田先生がいかに長く、皆さんに古文書の手ほどきをされてきたのかがわかります。

私が横田先生と親しく言葉を交わさせていただいたのは、「大酒供養塔」という短文をしたためた平成28(2016)年の秋のことです。横田先生が、自分も興味を持っていたと、資料を携えて文化財課に訪ねてこられました。それ以前にも先生にお会いしたことはありましたが、強く印象に残っているのはこの時です。

先生は、他の研究者が目にとめないことに関心を持たれます。今回、サロンの話者として紹介させていただいたのも、松本では今一つ印象の悪い水野忠直という大名が、慈悲の目を持っていたという触れ込みを聞いたからです。横田先生は、この史料をふすまの下張りから発見したそうです。今回のサロンでは、水野忠直の知られざる一面を中心にお話を伺います。

横田國政さんは1928年7月10日の生まれで、満97歳になったばかりです。サロンあがたの森の話題提供者では最高齢になります。独学で古文書解読を初めて70年余りになります。戦後まもなく原嘉藤先生の講習会に教員に交じって参加され、講座を指導するようになりました。松本市在住。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

主催：サロンあがたの森実行委員会 共催：旧制高等学校記念館・記念館友の会

申し込み・問い合わせ 旧制高等学校記念館 ☎35-6226 FAX 33-9986